

科学の目で見た海のプラスチックごみ

九州大学応用力学研究所付属
大気海洋環境センター教授

磯辺 篤彦

雑誌を見ていたら気になる記事を見つけたので書いてみます。

海では、ごみなどの物は基本的に沈んで風が運びます。下に沈んでるものは海流に押され、上に浮かんでるものは風に押され運ばれてゆきます。

もし日本列島の周りの海流が全部逆向になったらどうなるか、コンピュータで考えてゆきますと揚子江の河口に向かつてたくさんのごみが逆昇ってゆきました。



全てのごみが揚子江から来たわけではなく、小さな川からも海に流れこんできています。

いま海のごみの中で目立つのがプラスチックゴミです。プラスチックは便利なものなので現在は、大量に作られています。

プラスチックは腐らないので困るのです。

地球上の水のある所に散らばる1200万個のごみを調べたら、ごみ全体の約2/3を食品に関わるプラスチックが占めました。

世界中で一番多いプラスチックゴミはレジ袋です。プラスチックゴミの14%を占めます。大きな形状のプラスチックは放置しておくといくら細かく砕けていきます。この細かいプラスチックをマイクロプラスチックといえます。

このプラスチックを食べた小魚を大きな魚が食べ、それを哺乳動物や人が食べます。

このマイクロプラスチックの量が増えれば自浄能力のある海とはいえ最終的に生態系に悪い影響が出ることが考えられます。

世界の海を調べてみると日本の海や東南アジアの海ではマイクロプラスチックの量が他の所10倍位多くなっています。

結局プラスチックの使用量を減らして行かなければなりません。その方法を真剣に考えましょう。



鈴木楓子さん壮行会



鈴木楓子さん

（24才南足柄市関本在住）

南足柄中学卒業後、上智大学を卒業し、足柄ロータリークラブの推薦で難しい試験を突破、奨学金を得て9月からイギリスグラスゴー大学に留学し、国際政治を学び将来は国連などで難民問題に関わりたいということでした。
まだ若いのに良くこんな事を考えるものだと感じました。
その楓子さんの出発を祝って足柄ロータリークラブで壮行会を開催しました。

みなさんの質問や投稿をお待ちしております。

☆受付けからのお願い

月初めには必ず保険証を受付にお出し下さい。
診察券は毎回お持ち下さい。

☆編集に当たり校正には十分注意致しましたが、誤字・脱字等がありましたらご容赦下さい。

9月・10月の休診日

休診 日曜・祭日
午後休診 水曜・土曜



E・メールを送って下さい。
norikazu@okutu.jp

